

秋田喜代美・佐藤学編著「新しい時代の教職入門— Teacher Education in the New Era —」有斐閣 2006年4月30日刊を読む

授業についての知識

1. (1) 教師の授業についての知識の特徴はどのようなものであるのでしょうか。
(2) 授業を行うには、教科や教材の内容に対する知識が必要です。
(3) しかしそれだけでは授業はできません。
2. (1) その教材をどのように教えたら学習者にとってわかりやすいか、つまり学習指導の方法に関する知識や、学習者のわかり方についての知識が必要になります。
(2) このような教師の知識をショーマンは、「授業を想定した教材内容の知識」(pedagogical content knowledge)とよんでいます。(Shulman[1987])。
3. さらにグロスマンは、授業内容を想定した教材内容の知識を構成するものとして次の3つを挙げています。(Grossman[1991])。
 - (1) 第1に「生徒の理解に関する知識」です。
これには、子どもの認知や発達のプロセス、子ども一人ひとりの特性、学校や学級がおかれている状況、学校文化に関する知識などが含まれます。
 - (2) 第2に「カリキュラムについての知識」です。
教科やカリキュラム、教材についての知識などが含まれます。
 - (3) 第3に「授業方法に関する知識」です。
学習形態や指導方法、授業や学級経営に関する知識などが含まれます。
* 教師は、これらの知識を総動員させて授業をデザインしていくのです。
4. (1) 重要なのは、これらの知識が別々に存在するのではなく、教科や教材を教える目的についての概念に基づいて統合され、複合的に存在しているという点です。
(2) この教材をある学年のある特性の子どもに教えるにはどのような方法がよいかというかたちで存在するのです。
(3) 例えば、算数の計算問題を指導する場合には、「〇〇さんなら、進度が速いだろうから発展的な問題を用意しておこう、□□くんは、基本的な計算問題を周囲のペースに流されないように一人でじっくり考えてもらうのがよいらろう」というかたちで知識を統合させ、指導の方針や手立てを考えていくのです。

<コメント>

先生として毎日「授業を設計」し「レッスンプラン」を書き続ける上で、「授業についての知識」をどのように考えるべきか、本書は貴重な示唆を与えてくれる。初心者もベテランも、教職についてのテキストを常に手元に置いて学び続けることが、よい先生を目指す上で欠かせない。是非、御一読を。

— 2016年7月6日(水) 林 明夫記 —